

第3学年 英語科学習指導案

- 1 単元 Program 5-3 『だれかを「幸せにする」などと言えるようにしよう』
S V O Cの文型を使って、友だちのいいところ探し

2 学級の実態と題材設定の理由

本学級は、明るくユーモアのある雰囲気をもつ学級である。学習に対する意識も表れてきており、2年次に比べると授業に集中する姿が多く見られるようになってきた。しかしながらhyper-QUの結果から、本学級は「ゆるみがみられる学級」であると示され、一見元気でのびのびしているが、緊張感がなく自由に生活や活動をしているといった結果が見られた。よく分析したり、考えたりすると、そういったルーズな面やルールのあいまいさが思い当たる。具体的には「生徒同士の協同活動において人間関係の衝突が起こる」「まとまって活動するのに時間がかかる」などのマイナス面が見られる。また、自分の思い通りに発言・行動できる生徒と、思いをうまく表現できず、つらい立場にある生徒がいることもわかった。クラス全体としても「配慮」よりも「かかわり」のポイントが高く、ソーシャルスキルの定着に偏りがあることがわかる。この「かかわり>配慮」の状態が続くと、荒れにつながる可能性もあるため、日々の教科の授業を通して「配慮」のスキルを身につけさせることが必要である。

そこで、本時はS V O C《主語 + make(s) + 人 + 形容詞》の文型を題材として、ルールを守りながら、相手に対する配慮や感謝を感じられるコミュニケーション活動を行う。生徒たちは前時にこのS V O Cの文型を学習しており、本時ではその文型を使って友だちが自分に与えるプラス面の影響を表現する。

まず、ウォームアップのカード並べの段階で、前時の学習内容を思い出すと同時に、活動のルールの徹底をする（規範意識）。また、協力するときの班員への配慮の仕方を考え、実行させる。その後のコミュニケーション活動では、英語を使って、日頃はストレートに口にしない内容のやりとりすることで、自分の思いを伝え、相手の考えを理解するコミュニケーション能力を培う（コミュニケーション能力）。また友だちの中での自分の存在意義を知ることによって自尊心の高まりも期待される（自尊心）。実際の活動の前にはデモンストレーションを行い、生徒が取りかかりやすいようにする。活動後は振り返りをして、この活動を通して学んだ配慮や感謝の気持ち、うれしい気持ちなどを言葉にしてまとめる。その後、シェアリングを行って自分だけでなく周りの友だちの気持ちにも考えをめぐらす（共感性）。

3 本時の目標

○S V O C《主語 + make(s) + 人 + 形容詞》の文型を用いて自分の考えを相手に伝える。

☆いつも周りにいてくれる友だちが自分に与えている影響に気づき、また、友だちの思いも知ることで、当たり前とってしまいがちな人間関係に感謝や大切さを見いだす。

4 準備

- ・提示カード(活動内容/文型のポイント/会話フレーズ)
- ・単語カード(5文×4班+解答1)
- ・ワークシート
- ・フラッシュカード(形容詞)
- ・短冊(各班30)
- ・のり(各班3本)
- ・CD(You Are My Sunshine)
- ・CDプレーヤー
- ・歌詞の拡大版

5 展開

生徒の活動と内容	指導上の留意点
<p>1 ウォームアップを行う</p> <p>(1) 英語で始まりのあいさつをする。</p> <p>(2) 本時の活動の流れを確認する。</p> <p>(3) カード並べを行い、前時までの学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Dancing makes me happy. ・ Yamakasa makes us excited. ・ The game made them tired. ・ The news made him sad. ・ Flowers make Ms.Fukutake relaxed. <p>(4) 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>"○○ make(s)+人+形容詞"の文型を使って友だちのいいところ探しをしよう。</p> </div> <p>2 SVOC の文型を使ってコミュニケーション活動を行う</p> <p>(1) 英文に使う形容詞の発音練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ happy, relaxed, calm, excited, cheerful, ... <p>(2) 友達を主語にした英文を作り、短冊に清書する。</p> <p>(3) 教師のデモンストレーションを見て、会話のしかたに見通しをもつ。</p> <p>T1: Chinami makes me confident. T2: Why do you think so? T1: Because ~. T2: Thank you.</p> <p>(4) 実際に班員と会話をしながら自分の作った英文を伝え、短冊も渡す。</p> <p>(5) 教師のアドバイスや友だちのよい部分を取り入れながら会話を続ける。</p> <p>3 シェアリングを行う</p> <p>(1) もらった短冊をワークシートに貼る。</p> <p>(2) 活動の感想を振り返りシートに記入する。</p> <p>(3) 他の班と意見交流をする。</p> <p>4 まとめを行う</p> <p>(1) SVOC の文型を含む英語の歌を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ "You Are My Sunshine" <p>(2) 次時の予告を聴き、英語で終わりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ時の規律を確認する。(机・椅子・シャツ) ・ 配慮のスキルを高めるために、「話さずにやる」「できたらみんなで手を挙げる」というルールを徹底する。 ・ 「指文字」「アイコンタクト」「机タッチ」など具体的なスキルを示す。(T 1) ・ 配慮の意識を高めるために、よい動きや工夫をした生徒を紹介する。(T 2) ・ 解答は黒板に貼り、読みやポイント整理に活用する。 ・ ワークシートに一度書かせることで、めあてをより意識させる。 ・ 語源を説明して興味を高めたり、生徒を主語に英文を作ってイメージをもたせたりする。(T 1) ・ いいところを見つけることを意識させる。 ・ ワークシートと短冊の記入を支援する。 ・ 2人とも椅子に座り、班でやっている雰囲気を出す。 ・ 3パターンの例を行い、違いに気付かせる。 ・ スムーズな会話にするためのフレーズを説明する。(Why do you think so? / Because ~. / Thank you.) ・ ノンバーバルな部分のコミュニケーション(表情・握手など)にも意識させるため、よい動きや工夫をした生徒を紹介する。(T 2) ・ 本時の目標やまとめにつながる振り返りがあればチェックする。(T 2) ・ 班ごとに指名して発表させる。(T 1) ・ 実際に歌でも使われてる文型であること、英語だとストレートに言いやすいこと、当たり前と思ってしまうがちな人間関係に感謝や大切さを見いだしてほしいことを伝える。(T 1) ・ あいさつ時の規律を確認する。